

# 平成の終わりを 振り返って

京都清水寺森貫主、今年の世相を漢字一文字で「災」と揮毫。

災害の少ない北海道で、思いも寄らぬ台風の襲来と地震の爪痕は、記憶に生々しい。被災地の方々の越冬への思いは如何ばかりかと、降り止まぬ師走の雪空を眺める。天候不順による農業被害も、半作・六分作と、聞くに疑うほどの減収に続く減収。ただ遅き上に遅き今晚秋は、それを補うに余りあるでしょうか。

まほろばは、今年も主なき店を、かくまでもよく切り盛りして、恙なく年の瀬を迎えることが出来ました。ただただ天にも地にも人にも、感謝するばかりです。

仁木の農場では、何とか厳しき天候を乗り越えることが出来ました。少量多品目の管理に手間のかかる非効率さは相変わらずですが、来年も何処まで出来るか、工夫に工夫を重ねて行くのも楽しく思えます。

店もまた、年末にかけて人手の少ない現状、お客さまには、ご迷惑をお掛けしてしまうことがあるかもしれませんが、スタッフ皆たくましく、懸命に頑張ってくれております。お客様に置かれましても、どうかご理解、ご協力のほどをお願い申し上げます。

平成終わりの年、無事迎えられましたことの幸いを思います。ほぼ、まほろばの歴史と言っても良い平成の一世三十年の歳月を思い浮かべながら、次の新元の幕開きに生きて在ることに感謝して、本年度の挨拶とさせて戴きます。

まことに、ありがとうございました。皆様方にとりまして、来る新しき歳が、幸多き目出度き一年となりますようお祈り申し上げます。

まほろば主人 宮下 周平

平成 30 (2018) 年 12 月 31 日